


# 2019年3月期 第2四半期決算説明会



1.	2019年3月期 第2四半期決算実績	…	2
2.	2019年3月期 通期業績予想	…	12
3.	各事業の取り組み	…	20
4.	設備投資計画、株主還元	…	31
	Appendix	…	34

1. 2019年3月期 第2四半期決算実績

2. 2019年3月期 通期業績予想

3. 各事業の取り組み

4. 設備投資計画、株主還元



Appendix

# 決算ハイライト

(単位：億円)

	2018年3月期 2Q累計実績	2019年3月期 2Q累計実績	対前年		2018年3月期 通期実績	2019年3月期通期		対前年		対予想 増減
			増減	比率(%)		前回(7/31) 予想	今回(10/29) 予想	増減	比率(%)	
	A	B	B-A	B/A	C	D	E	E-C	E/C	E-D
<b>【連結】</b>										
営業収益	7,271	7,369	+98	101.4	15,004	15,255	15,165	+160	101.1	▲ 90
営業利益	1,112	1,133	+20	101.9	1,913	1,875	1,875	▲ 38	98.0	-
経常利益	1,026	1,058	+31	103.1	1,777	1,740	1,740	▲ 37	97.9	-
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	678	564	▲ 113	83.3	1,104	1,110	955	▲ 149	86.4	▲ 155
<b>【単体】</b>										
営業収益	4,854	4,846	▲ 8	99.8	9,762	9,880	9,790	+27	100.3	▲ 90
運輸収入	4,336	4,317	▲ 19	99.6	8,678	8,780	8,710	+31	100.4	▲ 70
営業費用	3,947	3,896	▲ 51	98.7	8,319	8,430	8,340	+20	100.3	▲ 90
人件費	1,091	1,081	▲ 9	99.1	2,214	2,170	2,165	▲ 49	97.7	▲ 5
物件費	1,835	1,834	▲ 0	100.0	4,076	4,265	4,200	+123	103.0	▲ 65
動力費	222	221	▲ 1	99.5	440	465	455	+14	103.2	▲ 10
修繕費	669	632	▲ 37	94.5	1,614	1,725	1,665	+50	103.1	▲ 60
業務費	942	979	+37	104.0	2,021	2,075	2,080	+58	102.9	+5
減価償却費	668	643	▲ 25	96.2	1,368	1,365	1,345	▲ 23	98.3	▲ 20
営業利益	906	949	+42	104.7	1,443	1,450	1,450	+6	100.4	-
経常利益	811	870	+58	107.2	1,286	1,310	1,310	+23	101.8	-
四半期(当期)純利益	558	459	▲ 99	82.2	807	895	740	▲ 67	91.6	▲ 155

# 単体損益計算書

(単位：億円)

	2018年3月期 2Q累計実績 A	2019年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	4,854	4,846	▲ 8	99.8
運輸収入	4,336	4,317	▲ 19	99.6
その他収入	518	528	+10	102.1
営業費用	3,947	3,896	▲ 51	98.7
人件費	1,091	1,081	▲ 9	99.1
物件費	1,835	1,834	▲ 0	100.0
動力費	222	221	▲ 1	99.5
修繕費	669	632	▲ 37	94.5
業務費	942	979	+37	104.0
線路使用料等	150	135	▲ 14	90.1
租税公課	202	202	▲ 0	99.8
減価償却費	668	643	▲ 25	96.2
営業利益	906	949	+42	104.7
営業外損益	▲ 94	▲ 78	+15	83.2
営業外収益	13	24	+11	-
営業外費用	108	103	▲ 4	-
経常利益	811	870	+58	107.2
特別損益	▲ 7	▲ 221	▲ 214	-
特別利益	34	88	+54	-
特別損失	42	310	+268	-
四半期純利益	558	459	▲ 99	82.2

# 運輸収入の主な増減要因

(単位：億円)

		2019年3月期 2Q累計実績				
		運輸収入	対前年	主な増減要因		
新幹線	2,272	+45 (102.0%)	基礎トレンド(101.9%)		+42	
			特殊 要因	・インバウンド	+8	
				・多客期好調	+10	
				・大阪北部地震	▲ 4	
				・平成30年7月豪雨	▲ 21	
				・台風21号・その他	+7	
	等					
在 来 線	近畿圏	▲34 (97.8%)	基礎トレンド(99.3%)		▲ 10	
			特殊 要因	・インバウンド	+4	
				・多客期好調	+2	
				・大阪北部地震	▲ 4	
				・平成30年7月豪雨	▲ 15	
				・台風21号・その他	▲ 14	
		等				
	その他	522	▲30 (94.5%)	基礎トレンド(99.4%)		▲ 3
				特殊 要因	・インバウンド	+1
					・多客期好調	+1
					・大阪北部地震	▲ 1
					・平成30年7月豪雨	▲ 26
・台風21号・その他					▲ 3	
	等					
在来線計		▲64 (96.9%)				
運輸収入計		▲19 (99.6%)				

※ 荷物収入は金額些少のため省略

# 運輸収入と旅客輸送量の実績

運輸収入

(単位：億円)

輸送人キロ

(単位：百万人キロ)

	2Q累計実績 (4/1~9/30)			2Q実績 (7/1~9/30)			2Q累計実績 (4/1~9/30)			2Q実績 (7/1~9/30)		
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年
全社計	4,336	4,317	▲ 19 99.6%	2,225	2,179	▲ 45 97.9%	29,881	29,742	▲ 138 99.5%	15,214	14,992	▲ 222 98.5%
新幹線	2,226	2,272	+45 102.0%	1,153	1,175	+21 101.9%	10,407	10,548	+140 101.3%	5,408	5,472	+64 101.2%
定期	54	56	+1 103.6%	27	28	+0 103.4%	431	447	+15 103.6%	215	222	+6 103.1%
定期外	2,172	2,215	+43 102.0%	1,126	1,146	+20 101.8%	9,976	10,101	+125 101.3%	5,193	5,250	+57 101.1%
在来線	2,109	2,045	▲ 64 96.9%	1,072	1,004	▲ 67 93.7%	19,473	19,194	▲ 279 98.6%	9,806	9,519	▲ 286 97.1%
定期	722	720	▲ 1 99.7%	359	356	▲ 2 99.3%	11,803	11,751	▲ 51 99.6%	5,800	5,753	▲ 46 99.2%
定期外	1,386	1,324	▲ 62 95.5%	713	648	▲ 65 90.9%	7,670	7,442	▲ 227 97.0%	4,005	3,765	▲ 240 94.0%
近畿圏	1,556	1,522	▲ 34 97.8%	782	746	▲ 35 95.5%	15,211	15,079	▲ 131 99.1%	7,599	7,468	▲ 130 98.3%
定期	594	594	+0 100.0%	295	294	▲ 0 99.9%	9,678	9,661	▲ 17 99.8%	4,764	4,748	▲ 15 99.7%
定期外	962	927	▲ 34 96.4%	486	452	▲ 34 92.8%	5,532	5,418	▲ 114 97.9%	2,835	2,720	▲ 114 95.9%
その他	553	522	▲ 30 94.5%	289	258	▲ 31 89.0%	4,261	4,114	▲ 147 96.5%	2,206	2,050	▲ 155 92.9%
定期	128	126	▲ 2 98.4%	63	61	▲ 1 97.0%	2,124	2,089	▲ 34 98.4%	1,036	1,005	▲ 30 97.1%
定期外	424	396	▲ 28 93.4%	226	196	▲ 30 86.7%	2,137	2,024	▲ 112 94.7%	1,170	1,044	▲ 125 89.3%

# 単体営業費用の主な増減要因

(単位：億円)

科目	2019年3月期 2Q累計実績		
		対前年	主な増減要因
人件費	1,081	▲ 9 (99.1%)	・単価差 等
動力費	221	▲ 1 (99.5%)	
修繕費	632	▲ 37 (94.5%)	・災害復旧優先に伴う設備投資関連工事等の 工程調整 等
業務費	979	+37 (104.0%)	・豪雨災害に係るバス代行経費 等
線路使用料等	135	▲ 14 (90.1%)	・JR東西線 等
租税公課	202	▲ 0 (99.8%)	
減価償却費	643	▲ 25 (96.2%)	・償却進捗 等
営業費用計	3,896	▲ 51 (98.7%)	

※「平成30年7月豪雨」の災害復旧に要する費用については、215億円を「災害損失引当金繰入額」として特別損失に計上。7



# 連結損益計算書

(単位：億円)

	2018年3月期 2Q累計実績 A	2019年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	7,271	7,369	+98	101.4
営業費用	6,158	6,236	+78	101.3
営業利益	1,112	1,133	+20	101.9
営業外損益	▲ 85	▲ 74	+10	87.5
営業外収益	26	33	+7	—
営業外費用	111	108	▲ 3	—
経常利益	1,026	1,058	+31	103.1
特別損益	▲ 13	▲ 227	▲ 214	—
特別利益	51	92	+40	—
特別損失	64	319	+255	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	678	564	▲ 113	83.3
四半期包括利益	701	584	▲ 117	83.3

(単位：億円)

	2018年3月期 2Q累計実績 A	2019年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益 <sup>*1</sup>	7,271	7,369	+98	101.4
運輸業	4,727	4,713	▲ 14	99.7
流通業	1,175	1,196	+20	101.8
物販・飲食	802	838	+36	104.5
【宿泊特化型ホテル】(再掲) <sup>*2</sup>	【56】	【62】	【+5】	【110.5】
百貨店	330	315	▲ 15	95.3
不動産業	687	692	+5	100.7
ショッピングセンター	291	300	+8	102.9
不動産賃貸・販売	385	381	▲ 3	99.0
【不動産販売】(再掲)	【171】	【159】	【▲ 12】	【92.6】
その他	681	768	+86	112.8
ホテル	176	165	▲ 10	94.1
旅行	193	184	▲ 8	95.7
営業利益 <sup>*1</sup>	1,112	1,133	+20	101.9
運輸業	835	878	+42	105.1
流通業	33	29	▲ 3	88.5
物販・飲食	32	26	▲ 5	82.9
百貨店	▲ 0	1	+2	-
不動産業	198	182	▲ 15	92.1
ショッピングセンター	44	47	+3	108.4
不動産賃貸・販売	103	106	+2	102.1
その他	32	29	▲ 2	90.8
ホテル	8	0	▲ 8	3.1
旅行	▲ 7	▲ 6	+1	85.5

<sup>\*1</sup> 各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません。

<sup>\*2</sup> 宿泊特化型ホテル「ヴィアイン」の合計値です。ただし、下関店（非連結）、浅草店（その他業）、広島銀山町店（その他業）は除きます。

# 各セグメントの主な増減要因

(単位：億円)

			2019年3月期2Q累計実績			
			対前年		主な増減要因	
			増減	比率(%)		
流通業	物販・飲食	営業収益	838	+36	104.5	・セブン-イレブン提携店舗好調 等
		営業利益	26	▲ 5	82.9	
	百貨店	営業収益	315	▲ 15	95.3	・自然災害、リニューアル工事支障 等
		営業利益	1	+2	-	
不動産業	ショッピングセンター	営業収益	300	+8	102.9	・ルクア1100 B1,B2リニューアル 等
		営業利益	47	+3	108.4	
	不動産賃貸・販売	営業収益	381	▲ 3	99.0	
		営業利益	106	+2	102.1	
その他	ホテル	営業収益	165	▲ 10	94.1	・三宮ターミナルビル閉館、自然災害 等
		営業利益	0	▲ 8	3.1	
	旅行	営業収益	184	▲ 8	95.7	・国内旅行軟調 等
		営業利益	▲ 6	+1	85.5	

※各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません。

# 連結財政状況およびキャッシュフロー計算書

(単位：億円)

	2018年3月期 期末 A	2019年3月期 2Q期末 B	増減 B-A
資産*	30,718	31,241	+522
負債*	19,555	19,747	+192
純資産	11,163	11,493	+330
長期債務残高	10,322	10,739	+417
【長期債務平均金利 (%)】	【1.86】	【1.83】	【▲ 0.03】
新幹線債務	1,038	1,033	▲4
【新幹線債務平均金利 (%)】	【6.55】	【6.55】	【-】
社債	5,249	5,649	+400
【社債平均金利 (%)】	【1.58】	【1.55】	【▲ 0.03】
自己資本比率 (%) *	33.2	33.7	+0.5
1株当たり純資産 (円)	5,273.42	5,471.86	+198.44

	2018年3月期 2Q累計実績 A	2019年3月期 2Q累計実績 B	対前年増減 B-A
営業活動によるキャッシュフロー	996	935	▲60
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 627	▲ 810	▲183
フリーキャッシュフロー	369	125	▲244
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 237	212	+449
現金及び現金同等物の増減	140	337	+197
現金及び現金同等物の期末残高	773	1,352	+578

\*「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を2018年3月期期末の貸借対照表残高に遡及適用しております。

1. 2019年3月期 第2四半期決算実績

2. 2019年3月期 通期業績予想

3. 各事業の取り組み

4. 設備投資計画、株主還元



Appendix

# 単体業績予想

(単位：億円)

	2018年3月期 通期実績 A	2019年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/31) 予想 B	今回(10/29) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	9,762	9,880	9,790	+27	100.3	▲ 90
運輸収入	8,678	8,780	8,710	+31	100.4	▲ 70
その他収入	1,084	1,100	1,080	▲ 4	99.6	▲ 20
営業費用	8,319	8,430	8,340	+20	100.3	▲ 90
人件費	2,214	2,170	2,165	▲ 49	97.7	▲ 5
物件費	4,076	4,265	4,200	+123	103.0	▲ 65
動力費	440	465	455	+14	103.2	▲ 10
修繕費	1,614	1,725	1,665	+50	103.1	▲ 60
業務費	2,021	2,075	2,080	+58	102.9	+5
線路使用料等	302	275	275	▲ 27	91.0	-
租税公課	357	355	355	▲ 2	99.3	-
減価償却費	1,368	1,365	1,345	▲ 23	98.3	▲ 20
営業利益	1,443	1,450	1,450	+6	100.4	-
営業外損益	▲ 157	▲ 140	▲ 140	+17	89.1	-
営業外収益	62	75	75	+12	-	-
営業外費用	219	215	215	▲ 4	-	-
経常利益	1,286	1,310	1,310	+23	101.8	-
特別損益	▲ 92	▲ 20	▲ 250	▲ 157	-	▲ 230
特別利益	298	-	-	-	-	-
特別損失	390	-	-	-	-	-
当期純利益	807	895	740	▲ 67	91.6	▲ 155

# 運輸収入の見通し

(単位：億円)

		2019年3月期 通期見通し								
		対前年	主な増減要因		対前回					
新幹線	4,555	+77 (101.7%)	基礎トレンド(101.4%)		+64	+7				
			特殊要因	・インバウンド	+18					
				・多客期好調	+9					
				・大阪北部地震	▲ 4					
				・平成30年7月豪雨	▲ 21					
				・台風21号・その他	+7					
				等						
			在来線	3,073	▲17 (99.4%)		基礎トレンド(99.7%)		▲ 9	▲ 47
							特殊要因	・インバウンド	+11	
								・多客期好調	+2	
・雪害反動	+3									
・大阪北部地震	▲ 4									
・平成30年7月豪雨	▲ 15									
・台風21号・その他	▲ 14									
等										
在来線	1,081	▲29 (97.3%)				基礎トレンド(99.3%)		▲ 7	▲ 30	
						特殊要因	・インバウンド	+3		
			・多客期好調	+0						
			・雪害反動	+5						
			・大阪北部地震	▲ 1						
			・平成30年7月豪雨	▲ 27						
			・台風21号・その他	▲ 3						
			等							
			在来線計		▲46 (98.9%)			▲ 77		
			運輸収入計		+31 (100.4%)			▲ 70		

※ 荷物収入は金額些少のため省略

# 単体営業費用の見通し

(単位：億円)

	2019年3月期 通期見通し			対前回
		対前年	主な増減要因	
人件費	2,165	▲ 49 (97.7%)	・単価差 等	▲ 5
動力費	455	+14 (103.2%)	・燃料費調整額増 等	▲ 10
修繕費	1,665	+50 (103.1%)	・設備投資に伴う撤去工事等の増 ・構造物対策経費増 等	▲ 60
業務費	2,080	+58 (102.9%)	・豪雨災害に係るバス代行経費 ・システム関連経費増 等	+5
線路使用料等	275	▲ 27 (91.0%)	・JR東西線 等	—
租税公課	355	▲ 2 (99.3%)		—
減価償却費	1,345	▲ 23 (98.3%)	・償却進捗 等	▲ 20
営業費用計	8,340	+20 (100.3%)		▲ 90



# 連結業績予想

(単位：億円)

	2018年3月期 通期実績 A	2019年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/31) 予想 B	今回(10/29) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	15,004	15,255	15,165	+160	101.1	▲ 90
営業費用	13,090	13,380	13,290	+199	101.5	▲ 90
営業利益	1,913	1,875	1,875	▲ 38	98.0	—
営業外損益	▲ 135	▲ 135	▲ 135	+0	99.4	—
営業外収益	90	86	86	▲ 4	—	—
営業外費用	226	221	221	▲ 5	—	—
経常利益	1,777	1,740	1,740	▲ 37	97.9	—
特別損益	▲ 71	▲ 70	▲ 300	▲ 228	—	▲ 230
特別利益	328	—	—	—	—	—
特別損失	399	—	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,104	1,110	955	▲ 149	86.4	▲ 155
1株当たり当期純利益 (円)	570.72	573.33	495.68	—	—	—

# 連結業績予想（セグメント別）

（単位：億円）

	2018年3月期 通期実績 A	2019年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/31) 予想 B	今回(10/29) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益 <sup>*1</sup>	15,004	15,255	15,165	+160	101.1	▲ 90
運輸業	9,508	9,620	9,530	+21	100.2	▲ 90
流通業	2,398	2,448	2,448	+49	102.1	—
物販・飲食	1,617	1,670	1,670	+52	103.3	—
【宿泊特化型ホテル】（再掲） <sup>*2</sup>	【116】	【127】	【127】	【+10】	【109.0】	—
百貨店	701	691	691	▲ 10	98.6	—
不動産業	1,396	1,478	1,478	+81	105.8	—
ショッピングセンター	596	607	607	+10	101.8	—
不動産賃貸・販売	781	851	851	+69	109.0	—
【不動産販売】（再掲）	【350】	【407】	【407】	【+57】	【116.4】	—
その他	1,700	1,709	1,709	+8	100.5	—
ホテル	356	361	361	+4	101.3	—
旅行	413	419	399	▲ 14	96.5	▲ 20
営業利益 <sup>*1</sup>	1,913	1,875	1,875	▲ 38	98.0	—
運輸業	1,303	1,306	1,306	+2	100.2	—
流通業	72	57	57	▲ 15	78.1	—
物販・飲食	60	44	44	▲ 16	72.3	—
百貨店	9	10	10	+0	101.1	—
不動産業	357	334	334	▲ 23	93.3	—
ショッピングセンター	87	85	85	▲ 2	97.5	—
不動産賃貸・販売	173	156	156	▲ 17	89.7	—
その他	199	211	211	+11	105.7	—
ホテル	19	14	14	▲ 5	70.5	—
旅行	2	3	3	+0	109.6	—

<sup>\*1</sup> 各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません。

<sup>\*2</sup> 宿泊特化型ホテル「ヴィアイン」の合計値です。ただし、下関店（非連結）、浅草店（その他業）、広島銀山町店（その他業）は除きます。

# 各セグメントの見通し

(単位：億円)

			2019年3月期 通期見通し				
			対前年		主な増減要因	対前回	
			増減	比率(%)			
流通業	物販・飲食	営業収益	1,670	+52	103.3	・セブン-イレブン提携店舗新規出店 等	—
		営業利益	44	▲ 16	72.3	・宿泊特化型ホテル開業経費 等	—
	百貨店	営業収益	691	▲ 10	98.6	・リニューアル工事支障 等	—
		営業利益	10	+0	101.1		—
不動産業	ショッピングセンター	営業収益	607	+10	101.8	・広島ekie開業平年度化 等	—
		営業利益	85	▲ 2	97.5		—
	不動産賃貸・販売	営業収益	851	+69	109.0	・販売戸数増、賃貸物件開業 等	—
		営業利益	156	▲ 17	89.7	・賃貸物件新規開業費用 等	—
その他	ホテル	営業収益	361	+4	101.3		—
		営業利益	14	▲ 5	70.5		—
	旅行	営業収益	399	▲ 14	96.5	・国内旅行軟調 等	▲ 20
		営業利益	3	+0	109.6		—

※各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません。

# 諸元表

(単位：人、億円)

	2018年3月期 2Q累計実績	2019年3月期 2Q累計実績	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 通期予想(10/29)
連結ROA (%) <sup>*1</sup>	3.7	3.7	6.3	6.0
連結ROE (%)	7.0	5.4	11.3	9.1
連結EBITDA <sup>*2</sup>	1,916	1,920	3,561	3,532
連結減価償却費	798	781	1,635	1,645
連結設備投資 (自己資金)	593	794	1,694	2,720
単体設備投資 (自己資金)	417	604	1,278	2,100
安全関連投資	284	384	832	1,270
1株当たり配当金 (円)	80	87.5	160	175

	2018年3月期 2Q累計実績		2019年3月期 2Q累計実績		2018年3月期 通期実績		2019年3月期 通期予想(10/29)	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
期末従業員数 (就業人員)	47,814	25,381	48,219	24,976	47,869	25,291	—	—
金融収支	▲ 101	▲ 96	▲ 91	▲ 81	▲ 202	▲ 196	▲ 193	▲ 176
受取利息・配当金	3	8	7	18	7	12	7	22
支払利息	105	104	99	99	209	208	200	199

\*1 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を2018年3月期期末の貸借対照表残高に遡及適用しております。

\*2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

1. 2019年3月期 第2四半期決算実績

2. 2019年3月期 通期業績予想

3. 各事業の取り組み

4. 設備投資計画、株主還元



Appendix

# グループ共通戦略：インバウンド需要の獲得①

## ○ 中計施策の進捗状況

	19.3期 上期	19.3期 下期	20.3期～
広域観光ルートの開発・整備	<p>「がんばろう！西日本」キャンペーン</p> <p>関西インバウンド観光リバイバルプラン</p> <p>新商品・既存商品見直し</p> <p>ハローキティ新幹線</p>	<p>瀬戸内誘客プレキャンペーン</p>	<p>本キャンペーン（予定）</p>
グループ一体となった需要の取込み	<p>宿泊施設の展開拡大、ホテルや商業施設のリニューアル（→ P.27～30）</p>		
受入体制の充実	<p>京都駅窓口機能強化</p>	<p>新幹線無料Wi-Fi（山陽・北陸）</p>	<p>駅内外における情報提供のさらなる充実（※）</p> <p>海外からのインターネット予約</p>
プロモーション強化	<p>シンガポール事務所支店化</p>		



関西インバウンド観光リバイバルプラン



無料Wi-Fi（新幹線）

### （※） 駅内外における情報提供のさらなる充実

- ・多言語音声翻訳システム導入駅の拡大（5駅→17駅）
- ・駅員・乗務員によるタブレット端末等での英語放送の充実
- ・SNS活用（Twitter・Facebookの多言語アカウント解説）
- ・自治体・観光案内所との連携強化

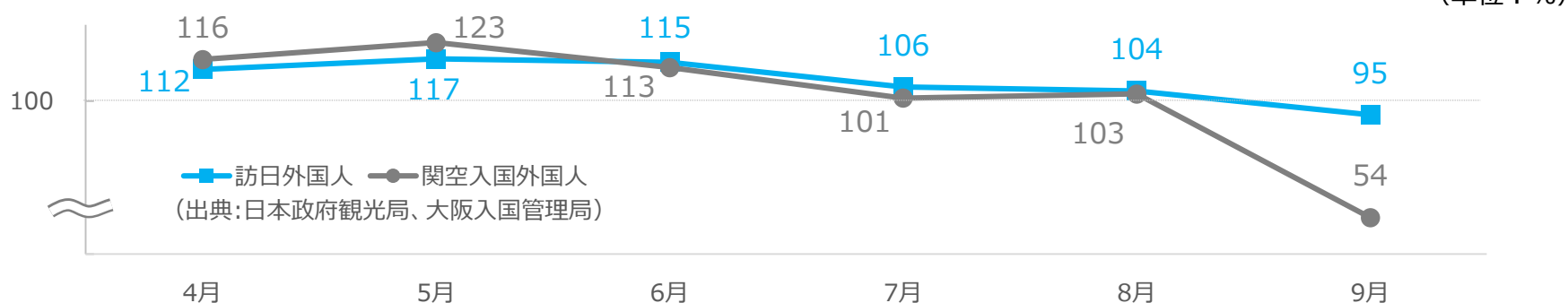
通期目標の達成に向け、各種施策により西日本エリアへの誘客を促進。

# グループ共通戦略：インバウンド需要の獲得②

## ○ 中計目標の進捗状況

	19.3期 上期実績		19.3期 通期目標		23.3期 目標	
連結営業収益	230億円	対前年108%	470億円	対前年109%		650億円
運輸収入	155億円	対前年110%	317億円	対前年112%		456億円
ご利用者数	79万人	対前年105%	180万人	対前年112%		260万人

## ○ 訪日外国人数の推移（前年比）



## ○ 9月のご利用状況（前年同曜日）

※特別に集計した速報値

(単位：%)



台風21号により影響を受けるも、関空全面再開後は前年並の水準まで持ち直す。

# 運輸業：新幹線①

## ○ 中計施策の進捗状況

		19.3期 上期	19.3期 下期	20.3期～
山陽	安全安定輸送	新車投入 (N700A) 台車の異常を検知する装置の導入 博多総合車両所リニューアル		 写真提供：岡山県観光連盟
	観光需要喚起	せとうちパレットプロジェクト インバウンド需要の獲得 (→ P.21)		
	ビジネス需要喚起	出張応援キャンペーン	法人向けネット予約「e5489コーポレートサービス」	
	輸送サービス向上	無料Wi-Fi		
北陸	観光需要喚起	日本の美は、北陸にあり	Japanese Beauty Hokuriku	
	ビジネス需要喚起	出張応援キャンペーン	法人向けネット予約「e5489コーポレートサービス」	
	輸送サービス向上	無料Wi-Fi		新IC乗車サービス 敦賀延伸

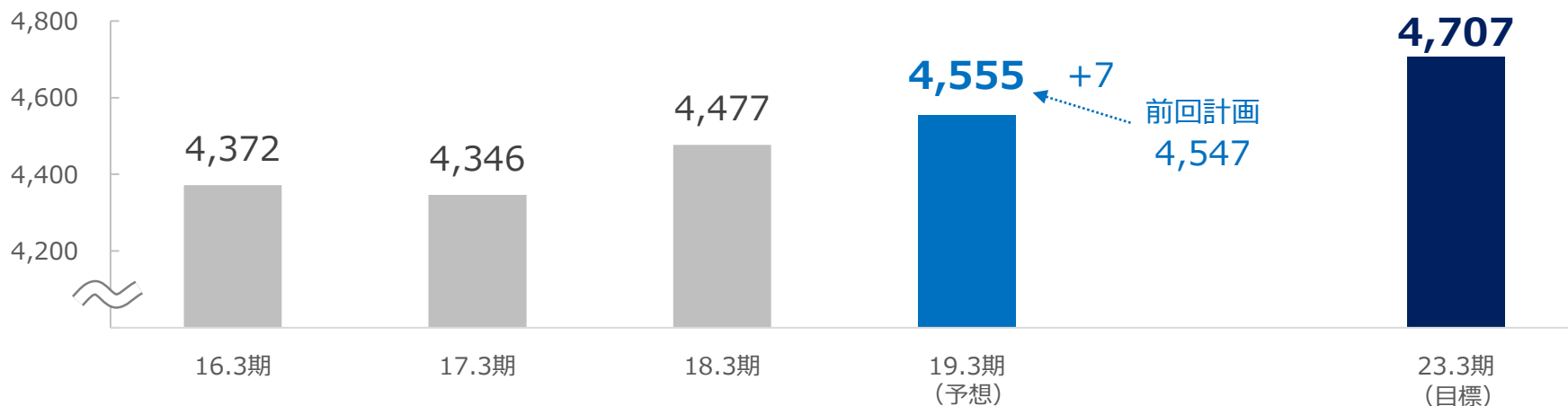
最大の成長ドライバーとして、ビジネス・観光の両面から競争力強化の取り組みを継続。



# 運輸業：新幹線②

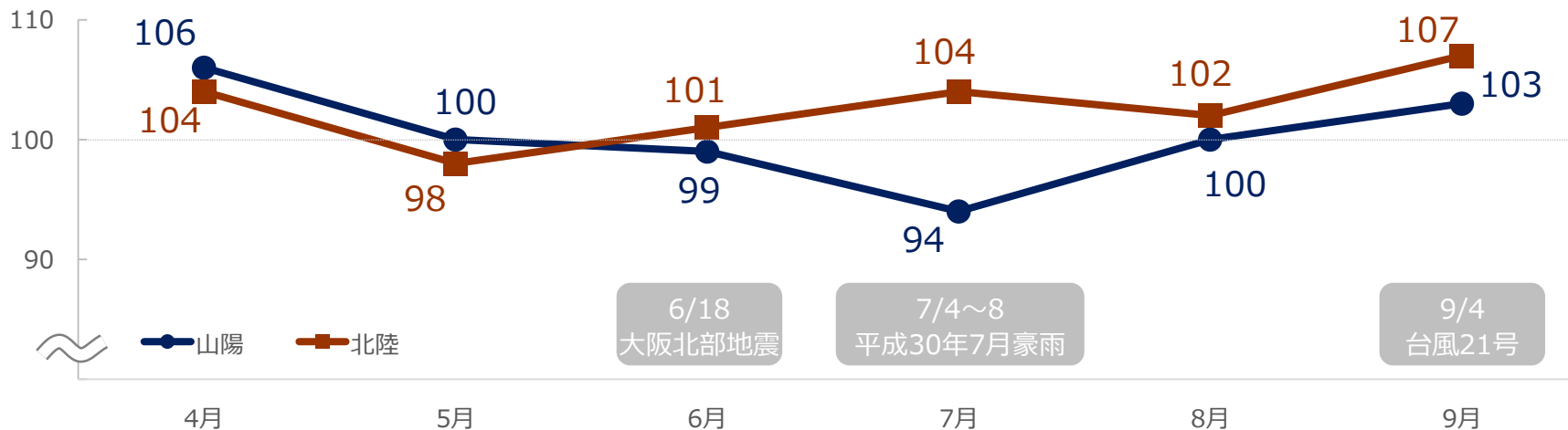
(単位：億円)

## ○ 新幹線収入の推移（通期）



## ○ ご利用状況（前年比）の推移

(単位：%)



## ○ 自然災害の影響を受けたにもかかわらず、通期予想を上方修正。

- 山陽・北陸とも基礎需要は堅調に推移
- ネット予約の利用促進や観光キャンペーンの実施により、国内外の需要を取り込み

# 運輸業：在来線①

## ○ 中計施策の進捗状況

近畿圏

その他

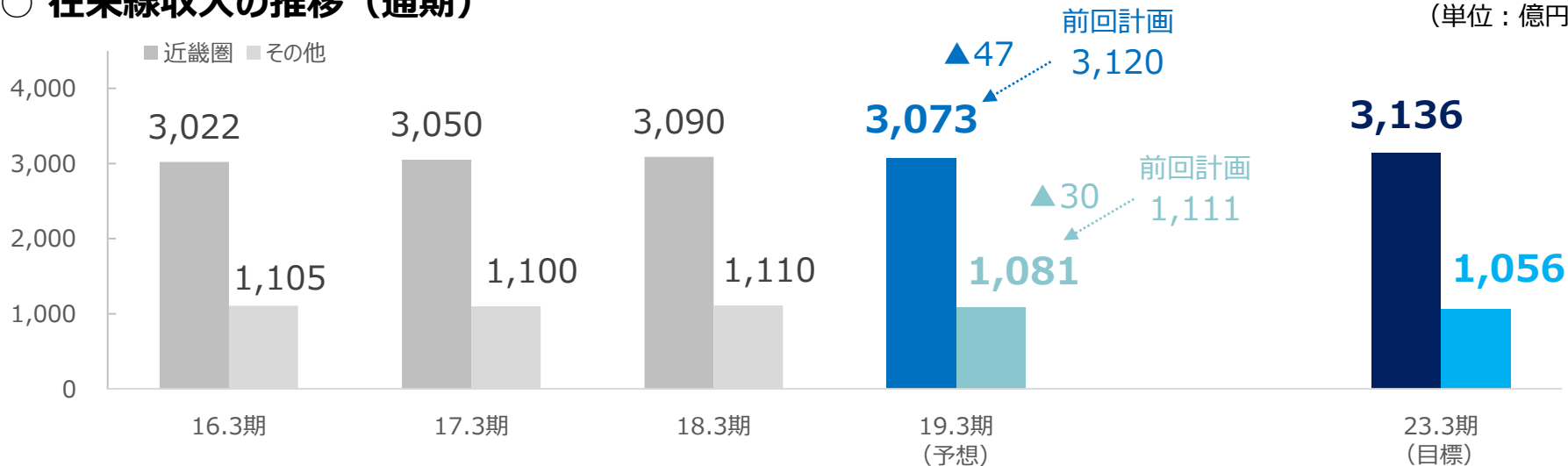
	19.3期 上期	19.3期 下期	20.3期～
線区価値向上 (→ P.37～38)	グループ一体での沿線開発 (→ P.27～30) 新駅(JR総持寺・衣摺加美北)	 おおさか東線 南吹田駅 (イメージ)	 梅小路京都西駅 (イメージ)
輸送サービス向上	新車投入 (大阪環状線323系) ICOCAエリア拡大・e5489チケットレスサービス拡大・他社との連携 (ICOCA定期発売等)	ICOCAポイントサービス・PiTaPaポストペイ	おおさか東線北区間 新駅 (梅小路京都西) うめきた(大阪)地下駅 なにわ筋線
観光を中心とした地域活性化・まちづくり	せとうちパレットプロジェクト	「がんばろう！西日本」キャンペーン 山陰DC (継続的取り組み)	尾道駅新駅舎 新たな長距離列車
持続可能な地域交通			吉備線LRT化
生産性向上			車載型IC改札機 (227系) 無線式ATC(和歌山線)

地域価値・線区価値向上に向けて、各種施策を着実に推進。

# 運輸業：在来線②

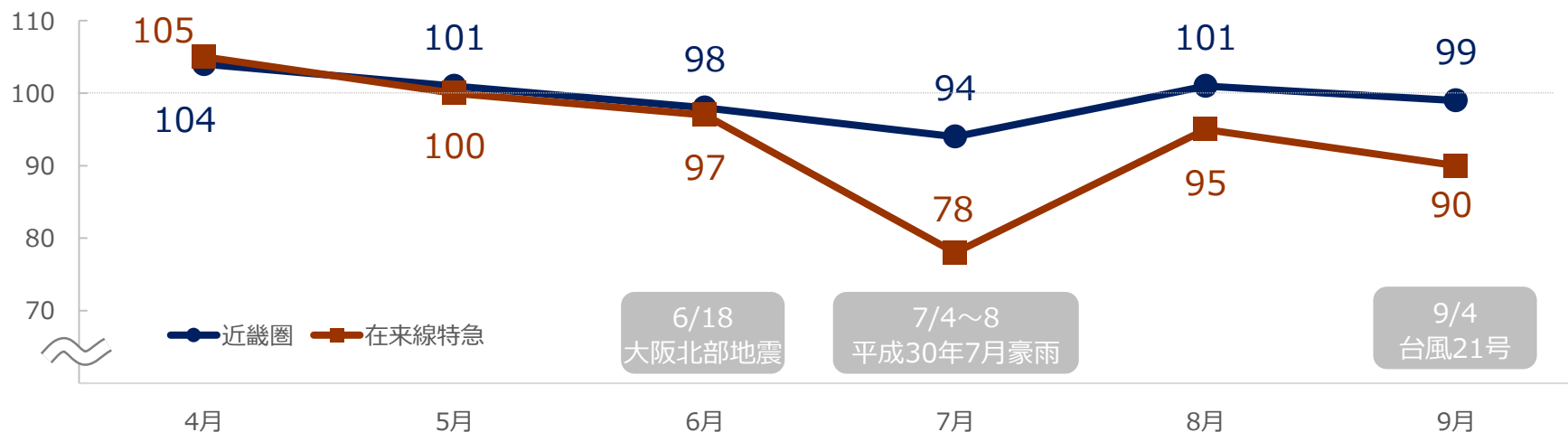
## ○ 在来線収入の推移（通期）

（単位：億円）



## ○ ご利用状況（前年比）の推移

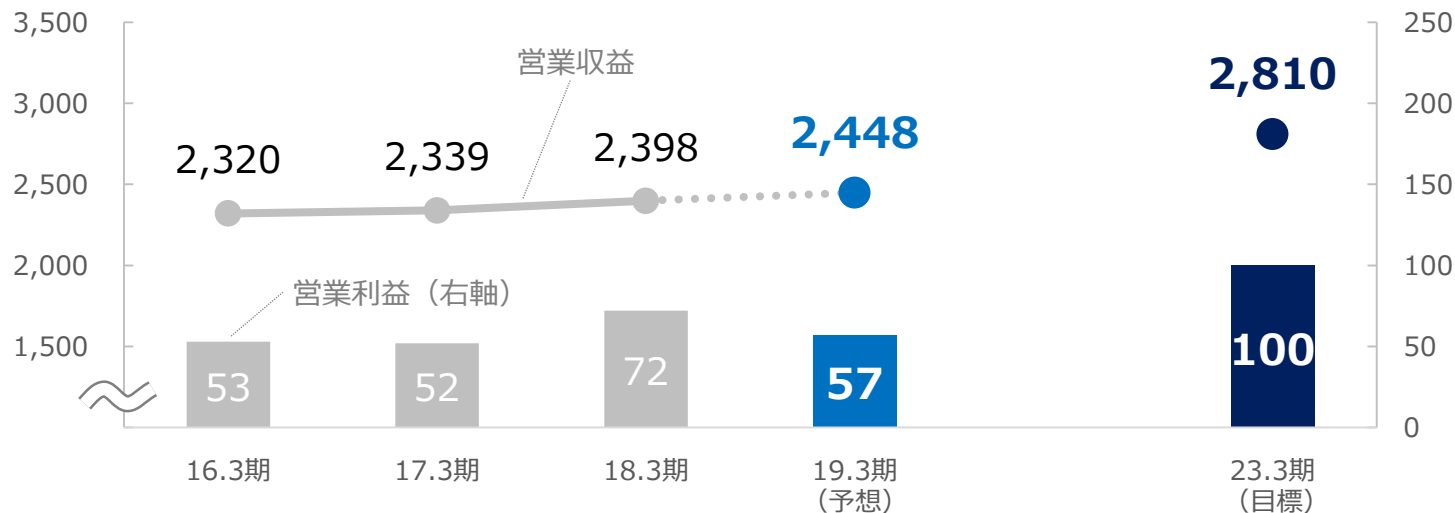
（単位：%）



自然災害の影響を踏まえて業績予想を下方修正も、下期は期首計画を堅持。

## ○ 業績の推移（通期）

（単位：億円）



## ○ 中計施策の進捗状況

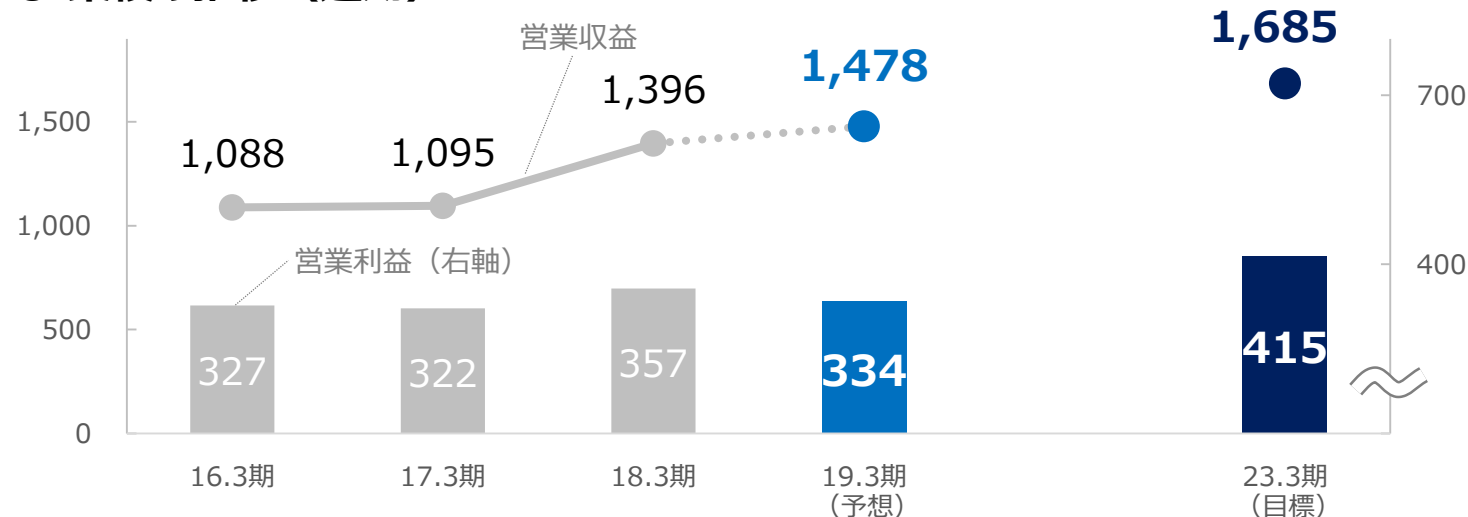
		19.3期 上期	19.3期 下期	20.3期～
物販・飲食	資産効率向上	SEJ提携店舗の運営力強化（19.3期 上期：売上 <b>4割増</b> ※転換前との比較） 駅ナカ店舗リニューアル（茨木駅）		駅ナカ店舗リニューアル（京都駅・岡山駅）
	事業規模拡大	SEJ提携店舗 新規出店（18.9月末：累計 <b>377</b> 店舗 → 目標：累計 <b>500</b> 店舗） 宿泊特化型ホテル「ヴィアイン」新規出店（→ P.30）		
百貨店	資産効率向上	京都店リニューアル（18.12月：地下1階（食品売場拡大）、2020年春：2～5階全面開業）		

**SEJ提携店舗は運営力強化により好調を維持。新規出店により成長を加速。**

# 創造事業：不動産業①

## ○ 業績の推移（通期）

（単位：億円）



## ○ 中計施策の進捗状況

		19.3期 上期	19.3期 下期	20.3期～
S C	資産効率向上	LUCUA FOOD HALL		ekie 第IV期 (広島)
	事業規模拡大	ekie 第III期 (広島)	吹田グリーンプレイス 第II期	
賃貸・販売	駅からはじまるまちづくり	賃貸	ビエラ千里丘 大阪北NKビル	ビエラ岸辺健都 ビエラ明舞 3大プロジェクト (大阪・三ノ宮・広島)
		販売	プラウドシティ塚口 マークスカイ	アーバン島本シティ 摩耶シティ STATION GATE

(→ 物件の詳細はP.39～40)

不動産賃貸・販売業は事業規模拡大、SC業は新規開発とリニューアルを推進。

# 創造事業：不動産業②（S C業）

LUCUA osaka

LUCUA  
OSAKA

## 特 徴

- **テナントとのコミュニケーション**を基盤とした運営

## 地下階リニューアル

- 2017年9月：地下1階（対象延床面積：約3,800㎡）  
・**ユニクロ・GU**開業
- 2017年12月～2018年4月：地下2階  
（対象延床面積：約5,100㎡）

## I 期：「バルチカ」エリア拡大

（大阪駅直結の好立地に人気店を集約）

## II 期：「LUCUA FOOD HALL」

（マルシェとレストランが融合した新しい食のエリア）



バルチカ



LUCUA FOOD HALL

## 新たな取り組み

- **ECマースとの融合：「LUCUA de 受取り」**

西日本最大拠点「大阪」の更なる賑わい創出

ekie（広島）

ekie

## コンセプト

### ■「広島の新しい目抜き通り」

- ・瀬戸内エリアの魅力発信（**せとうちパレットプロジェクト**）

## 開発計画

- 店舗面積：約**10,400**㎡、店舗数：約**130**店舗

I 期 2017年10月：線路上空エリア

（「**ザッカマルシェ**」をテーマにこだわりの商品を取り揃え）

II 期 2018年3月：「**ekie DINING**」

（地元の名店等を集めた新たな駅ナカグルメスポット）

III 期 2018年9月～10月：

「**エキエバル**」、「**ekie おみやげ館**」等

（カジュアルな飲食ゾーン、大規模お土産ゾーン 等）

IV 期 2019年夏以降：現「広島新幹線名店街」

（多様な食料品ニーズに応える売り場を展開予定）



ekie DINING



エキエバル



ekie おみやげ館

瀬戸内エリアの拠点「広島」の魅力向上

# 創造事業：ホテル事業

※記載内容は非連結のホテルを含む  
※今後開業予定のホテル名は仮称



## ○ 中計目標の進捗状況

	19.3期 上期実績		19.3期 通期目標		23.3期 目標
外部売上高	228億円	対前年▲4億円	488億円	対前年+15億円	632億円

※連結ベース（流通業「ヴィアイン」+その他「ホテル業」）

## ○ 主な出店計画

		19.3期 上期	【合計部屋数】	20.3期～	【23.3期目標】
 <b>グランヴィア</b>	その他 シティホテル		2,270 室	 京都リニューアル	約2,300 室
 <b>ヴィスキオ</b>	その他 ハイクラス 宿泊主体型 ホテル	 大阪	 590 室 尼崎	 京都	約1,400 室
 <b>ヴィアイン</b>	流通 宿泊特化型 ホテル	 飯田橋後樂園	新大阪正面口 5,292 室 名古屋駅前椿町	 博多	約6,700 室
 <b>Potel</b>	非連結 コミュニティ型 カジュアルホテル		—	京都八条口 心齋橋西 東京日本橋 広島新幹線口 梅小路(京都)	約200 室
 <b>ファーストキャビン                      ステーション</b>	非連結 上質 カプセルホテル		和歌山 203 室		約400 室

合計 8,355室

合計 11,000室

宿泊特化型ホテル「ヴィアイン」は高稼働率を維持。積極的な新規出店を継続。

1. 2019年3月期 第2四半期決算実績

2. 2019年3月期 通期業績予想

3. 各事業の取り組み

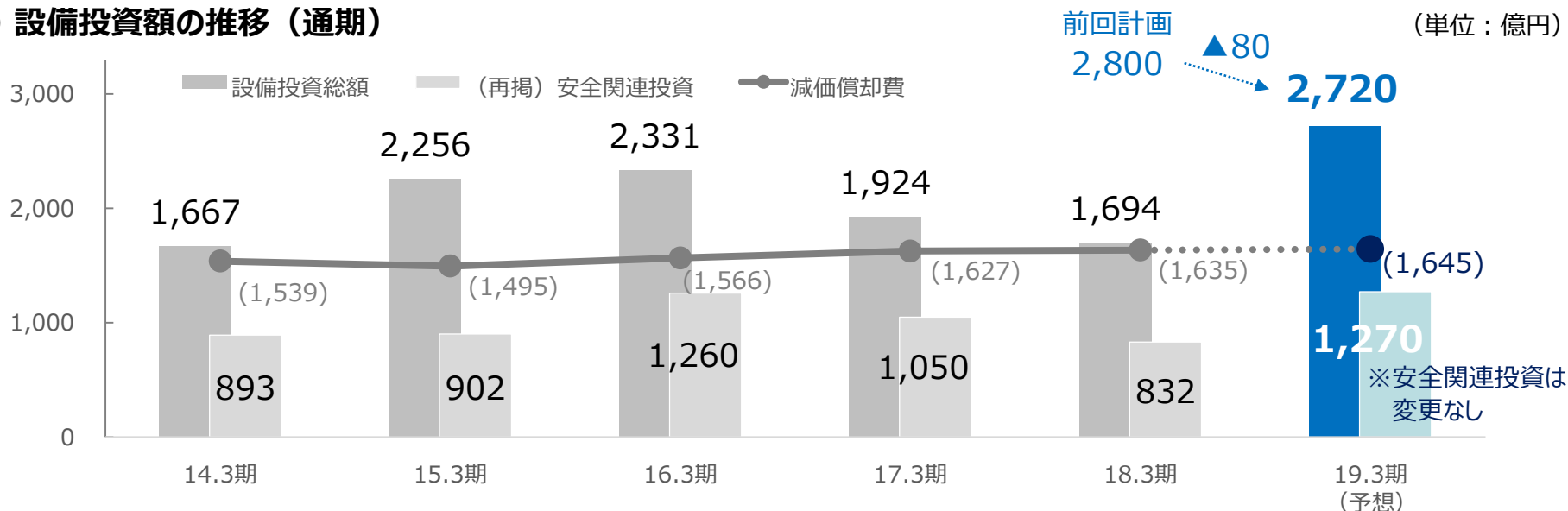
4. 設備投資計画、株主還元



Appendix



## ○ 設備投資額の推移（通期）



### 中計期間 設備投資総額

総額 12,700億円

成長投資  
4,600億円

維持更新投資  
8,100億円

安全関連投資  
5,300億円

### 19.3期 主な投資案件

#### 成長投資

- ・鉄道事業
  - ICOCAエリア拡大、ポイントサービス
  - 新駅設置、駅改良
  - ネット予約サービス
- ・創造事業
  - 賃貸ビル（ビエラ岸辺健都 等）
  - ホテル開発（ヴィスキオ大阪 等）
  - 百貨店リニューアル
  - SEJ提携店舗新規出店

#### 安全関連投資

- ・車両取替・改造
  - 山陽新幹線（N700A）
  - 近畿圏（大阪環状線323系）
- ・保安・防災対策
  - ホーム安全対策
  - 地震・津波対策

### ○ 第2四半期累計実績

794億円（対前年+201億円）

(再掲) 安全関連投資  
384億円（対前年+99億円）

災害復旧を踏まえて今期計画を見直しも、中計期間トータルの計画に変更なし。

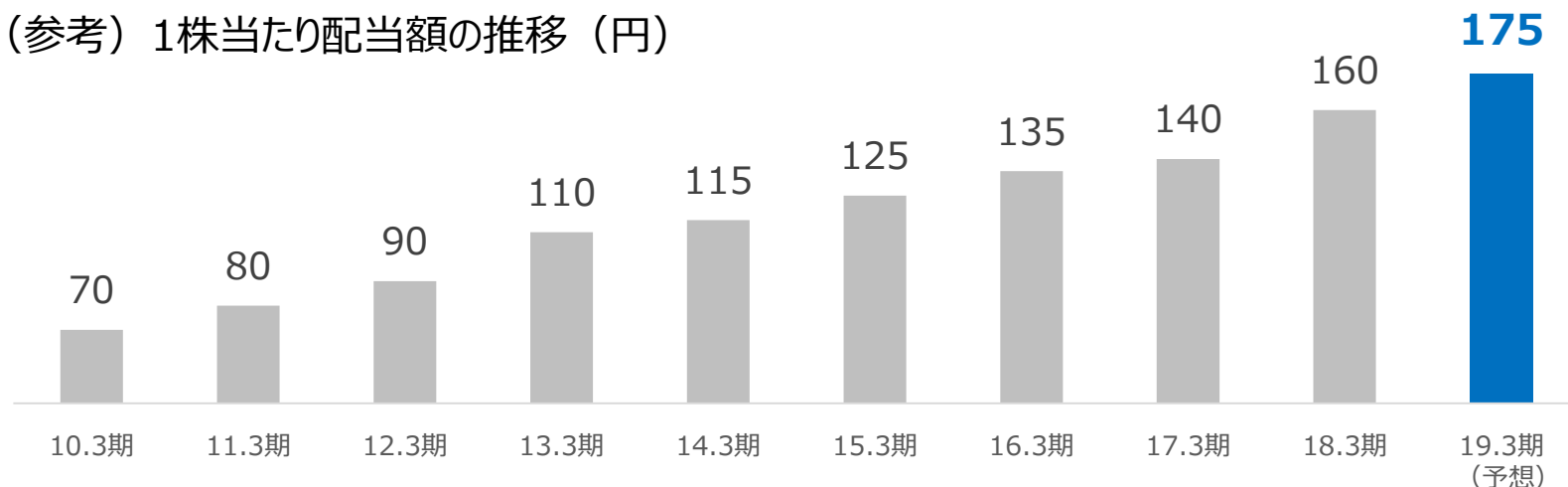
## 株主還元方針

- **2023年3月期において配当性向35%程度**をめざし、安定的に配当を実施
- **本計画期間累計の総還元性向40%程度**を目安とし、機動的に自己株式も取得

## 19.3期の株主還元

- **+15円増配**の1株当たり**175円**を予定（期初予想を据え置き）**※9期連続の増配**
- **99億円の自己株式**を取得、消却（取得：6/1～7/17、消却：8/15）

（参考）1株当たり配当額の推移（円）



業績予想は下方修正も、配当予想は堅持。長期安定的な配当を重視。

1. 2019年3月期 第2四半期決算実績

2. 2019年3月期 通期業績予想

3. 各事業の取り組み

4. 設備投資計画、株主還元



Appendix

# (参考①) 自然災害：発生状況

	大阪北部地震 (6月18日)	平成30年7月豪雨 (7月4日～8日)	台風21号 (9月4日)
発生当時の状況	・山陽新幹線、近畿圏で当日夕方まで運休	・山陽新幹線、近畿圏含む在来線で7/6～7はほぼ全面運休	・山陽新幹線、近畿圏で当日大幅運休
主な被害箇所	・大きな物的被害はなし	・279箇所で被災 ・多数の路線で運転見合わせ	・連絡橋損傷等により、関空線で約2週間運転見合せ
復旧状況	・翌日よりほぼ平常通り運行	・一部路線を除き、運転再開	・関空線9月18日運転再開

※上記のほか、台風12号（7/29）、台風15号（8/14）、台風20号（8/23）、台風24号（9/30）が西日本に上陸

(参考) 平成30年7月豪雨直後の状況



芸備線（白木山～狩留家駅間）  
第1三篠川橋桁流出



山陽線（本郷～河内駅間）  
冠水



伯備線（備中高梁～木野山駅間）  
コンクリート柱折損・土砂流入

**多数の大規模自然災害が発生。短期的には業績にも影響。**

## 「がんばろう！西日本」キャンペーン



がんばろう！西日本

### 目的

- 中国・せとうちエリアへの国内外からの誘客

### 実施時期

- 2018年8月～2019年春  
※終了時期を12月末から延長

### 主な取り組み

- 中国・せとうち方面への旅行プラン等の発売
  - ・首都圏発【応援キャンペーン】のぞみで行く広島・岡山！
  - ・13府県ふっこう周遊割
  - ・「山陰めぐりパス」、「山陰フリーパス」の発売期間延長 等
- 中国・せとうち方面の旅行に関するPRイベント
  - ・山陰DCコラボ企画 山陰グルメフェア in 駅マルシェ大阪 等
- 海外における西日本の情報発信
  - ・東アジアのメディアを招請した被災地域の情報発信

## 関西インバウンド観光リバイバルプラン



### 目的

- 関西地区のインバウンド観光の活性化

### 実施時期

- 集中キャンペーン期間：9月21日～1ヵ月程度  
※主な取り組みは11月末まで延長

### 主な取り組み

- 旅行プラン等の発売
  - ・旅行会社と連携したオプションツアー等の商品造成強化
- 駅や列車内における海外からのお客様のおもてなし
  - ・関西空港駅でのウエルカムドリンク引換券プレゼント
  - ・関西空港駅から京都への手ぶら観光サービス無料提供
  - ・はるかへのハローキティラッピング 等
- 海外における関西の情報発信
  - ・関西空港のご利用が多い東アジアからのメディアを招請した情報発信

地域、関係各社等と連携して多くの取り組みを実施し、観光需要喚起に努める。

# (参考③) 近畿圏における線区価値向上の取り組み①

**鉄道事業**

**創造事業**

( )は開業・引渡日等  
※は共同事業



# (参考④) 近畿圏における線区価値向上の取り組み②

## 京都



京都伊勢丹リニューアル  
(2018.12～2020春)



右:ヴィスキオ京都 (2019.5)  
左:ヴィアイン京都八条口 (仮称)  
(2019春)



梅小路京都西駅  
(2019春)



梅小路ホテル京都  
(2020春)



J.GRAN THE HONOR  
下鴨糺の杜  
(2017.6)

京都駅前地下街  
ポルタ「東エリア」リニューアル  
(2018.3)

駅ナカ商業施設リニューアル  
(2019春)

グランヴィア京都リニューアル  
(2017.1～2020.3)

## 大阪



LUCUA地下階リニューアル  
(2017.9～2018.4)



ヴィスキオ大阪  
(2018.6)



ヴィアイン梅田  
(2017.8)

大阪駅西エリア開発  
(2023以降)

## 新大阪



アルデ新大阪リニューアル  
(2013.12～2017.8)

ヴィアイン新大阪正面口  
(2018.7)

# (参考⑤) 主な不動産賃貸物件

※は他社との共同事業

西日本エリア

エリア外

19.3期 上期

19.3期 下期

20.3期～

物件名	ビエラ千里丘	大阪北NKビル	ビエラ岸辺健都	ビエラ明舞	福島5丁目・7丁目共同開発 ※	(仮称)JR金沢駅西第三NKビル開発
所在地	大阪府吹田市	大阪府大阪市	大阪府吹田市	兵庫県神戸市	大阪府大阪市	石川県金沢市
用途	商業	ホテル等	クリニック、ホテル等	商業等	ホテル、商業	オフィス
延床面積	約2,200㎡	約14,000㎡	約27,000㎡	約10,600㎡	約11,000㎡	約6,100㎡
開業日(予定)	2018.4	2018.6	2018.11	2018.11	2019年春	2019年春
物件名	フォレスト宮崎台		(仮称)茨木新中条町NKビル	(仮称)広島大手町NKビル	(仮称)京都梅小路NKビル	ヴィアイン広島新幹線口(仮称)開発
所在地	神奈川県川崎市		大阪府茨木市	広島県広島市	京都府京都市	広島県広島市
用途	賃貸マンション		商業・賃貸マンション等	ホテル	ホテル	ホテル
延床面積	約3,400㎡(建物面積)		約11,000㎡	約4,400㎡	約8,300㎡	約5,700㎡
開業日(予定)	2018.5取得		2019年春	2019年春	2020年春	2020年春

エリア内を中心に多くの開発を推進。経営資源を投入し、積極的な成長をめざす。



# (参考⑥) 主な不動産販売物件

※は他社との共同事業

西日本エリア

エリア外

19.3期 上期

19.3期 下期

20.3期～



物件名	ジェイグラン・エル茨木	J.GRAN THE HONOR 下鴨糺の杜	アーバン島本シティ ※	ジェイグラン南福岡 サンリヤン ※	摩耶シティ STATION GATE※	ジェイグランシティ塚本
所在地	大阪府茨木市	京都府京都市	大阪府三島郡	福岡県福岡市	兵庫県神戸市	大阪府大阪市
総戸数	283戸	99戸	264戸	77戸	118戸	312戸
引渡日 (予定)	2016.3	2017.6	2019.2	2019.3	2019.9	2020.3



物件名	ディアエスタ ミ 福町 アーバン	プライドシティ塚口 マークスカイ ※	ザ・テラス戸塚 グランターミナル ※	ライオンズ東海通 ジェイグランディア ※	ジェイグラン元住吉	ジェイグランディア日吉
所在地	大阪府大阪市	兵庫県尼崎市	神奈川県横浜市	愛知県名古屋	神奈川県川崎市	神奈川県横浜市
総戸数	96戸	366戸	175戸	69戸	41戸	86戸
引渡日 (予定)	2017.10	2018.3	2019.3	2019.3	2019.8	2019.11

他社との共同事業を含め、エリア内外において多数の物件を開発。

- 本スライドは、JR西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。通常、このような将来への展望に関する表明は、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する将来のことを表す表現で表わされています。これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。
- 既に知られた若しくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとしうる重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
  - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
  - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
  - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
  - 旅客鉄道会社及び航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
  - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害
- 本スライドに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2018年10月30日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2018年10月30日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本スライドの見通しには含まれておりません。

当資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。

JR西日本ホームページ「IR情報」 <http://www.westjr.co.jp/company/ir/>